



Mito City International Association

(財)水戸市国際交流協会機関紙

第26号

2006.10.

水戸市・アナハイム市学生親善大使の交流



水戸市学生親善大使派遣

水戸市学生親善大使のアナハイム市への派遣は、昭和63年(1988)に始まりました。18回目にあたる今回は、15名の高校生・大学生がアナハイム市民の家庭に17日間ホームステイしました。学生親善大使は、水戸市の代表としてアメリカの歴史や文化を学び、小学校や博物館の見学、ディズニーランド体験などを通して、相互理解と友好親善を深めました。

〈水戸市学生親善大使〉

大森 園子(高校2年)	鬼沢 ひとみ(高校2年)	小貫 友里(高校2年)	木村 仁美(大学4年)	栗原 千絵(高校2年)
佐久間 大樹(高校2年)	佐藤 健太郎(高校1年)	杉山 晶子(高校2年)	鈴木 奈央子(高校2年)	永藤 理裕(高校1年)
丹羽 愛(高校1年)	藤枝 愛里(高校2年)	八木岡 真弓(大学2年)	谷田部 大貴(高校3年)	矢内 利沙(大学2年)

(団長) 安 浩美 水戸市立千波中学校教諭

A once in a lifetime chance

高校1年 佐藤 健太郎

私のアナハイムで過ごした17日間は、とても楽しく、貴重で、まるで夢のような時間でした。異郷の地でたくさんの人々と交流しました。時には一緒にスポーツをしたり、ギターを弾いたり、プールに入ったり、歩いたり…。さまざまな方向から接していくうちに、たくさんの人々と友達になることができました。それは言葉を超え、性別を超え、年齢を超え、肌の色を超え、国をも超えた私には掛け替えのない友達です。しかし出会いがあれば、別れはつきものです。どんなに仲がよくても、最後には別れが待っています。スタジアムで声を切らして一緒にエンジェルスを応援した方。ダンスパーティーで何もわからない私に手取り足取りで教えてくれ、一緒に踊ってくれた方。プールで一緒に泳いだ、活気に満ち溢れた笑顔を持った子供たち。クラスのボランティアで参加してくれていた異郷の地の高校生など、ほとんどの方が1度しか会っていないのに、もう2度と会えない名前も知らない私の友人たちです。ほかにも多くの友人がいます。その人たちのことを思い出すと、今でも目頭が熱くなります。「もう会うことはないのだ…。」と。

「もっといろいろなことを話したかった。」ということは今でも思っています。しかしそれは15歳だった私にとっては、とても高いハードルでした。スティ先で、私は自分の英語力のなさを痛感しました。時には「何で自分はこんなに話せないのだ」という憤りを感じることもありました。そのハードルが、私にひとつの目標を立ててくれました。それは英語力の強化です。しかも普通の英語圏の人々が話す会話についていけるぐらいの能力…。それがあればもっとスムーズにコミュニケーションを図ることもできただろうし、もっと多くの友人ができただろうし、ほかにもいろいろな有意義な出来事が待っていたはずでした。

今度は、高い英語力を持って渡来したいと思えます。もちろんアナハイムに…。そしてホストファミリーやアメリカでの友達にあってたくさん話したいです。そして、自分の口からこういいたいです。「ありがとう」と。



Anaheimで考えた

高校2年 小貫 友里

違い——アナハイムでこんなことがあった。さよならパーティーの前に地元紙のインタビューがあって、記者から「アナハイムで驚いたことはなんですか？」という質問をされた。そのとき学生親善大使の一人の男の子が、車のマナーや交通ルール、ドライバーの態度の違いに驚いたというようなことを答えていた。私はそのとき正直、それって記者の人達の聞きたいこととずれているのじゃないかな、と思ってしまった。ところが同席していたMarne(アナハイムでの先生)は、それを聞いて「Good! Very Nice comment!!!」とすごく褒めた。私は予

アナハイム市学生親善大使来水

水戸市学生親善大使派遣に先立ち、アナハイム市から高校生8名と引率教師1名が、2006年6月30日から7月13日の日程で来水しました。来日した8名の高校生たちは、ホームステイしながら、水戸市内の小中高校への訪問などを通じて、水戸の市民と交流し、日本文化や日本の生活様式などを体験しました。

想もしていなかった彼女の反応に驚き、そして、これがアメリカなんだ、と思った。

アメリカの人達は自立している。自分は自分、人は人。クラスの間いっしょにクラスに来てくれたhost sisterやbrotherの子達も、暇なときにはノートに何か書いていたり、プレスレット編んでいたり、思い思い自分のやりたいことをして(もちろん授業中うるさくしたり迷惑かけるようなことは絶対しなかったけど)必要以上に人の目を気にしてなくてなんだかうらやましかった。こういっていると、アメリカ人って自由気ままで自分勝手なのでは、と思うかもしれないけれど、それが違う!! アメリカの人達は自分が通る時に後の人が通るまでずっとドアを開けておいてくれたり、「お先にどうぞ」"After you"というようなことを、恥ずかしがったりせずに、当たり前のようにやってくれた。host先にいた5才と7才の女の子でもそうやって気がついてすばらしいなと思った。

日本人はやっぱり人と違うことをするのを怖がってしまうところがあると思う。違うことをして目立つのが恥ずかしいって。でも、そうやって人にあわせて言いたいことをいわずに、やりたいことをやらずにいたりするのはつまらないなと思った。違ってもいいじゃない? 違うから面白くなる。周りの人が自分と違ってもそれでいいというふうにみんなが考えれば、もっと自由で楽しくなると思う。自分の人と違ういいところを見つけたら大切にしていきたいなと思った。ここまでアメリカはいい!! ということがばかり書いてきたけれど、2週間て日本人は日本人でおっとりして、優しいところがいいなあと思ったりもした。

Anaheimへ行ったことは本当にいい経験になった。毎日楽しかったし、帰りたくないと思うほどだった。私達が過ごしやすいようにずっと頑張ってくれた協会のみなさん、一緒に行ってくれた安先生、ホストファミリーの皆さん、学生親善大使のみんな、本当にありがとう。



【日 程】	
7/28(金)	カリフォルニア州アナハイムへ
7/29(土)・30(日)	ホストファミリーと過ごす
7/31(月)	授業(自己紹介、週末の報告、シンボルについて)
8/1(火)	午前: 小学校訪問 午後: 授業、同年代のアメリカ人との交流
8/2(水)	ナッツベリーファーム
8/3(木)	午前: 授業(ナッツベリーファーム感想) 午後: 授業(祝日について)、市役所訪問
8/4(金)	午前: 授業(祝日について)、市議会場訪問 午後: ピーチパーティー
8/5(土)・6(日)	ホストファミリーと過ごす
8/7(月)	ティズニールランド
8/8(火)	午前: 授業(歴史上の人物) 午後: パレエスクール見学
8/9(水)	レーガン大統領記念館見学 午前: キワニスクラブ朝食会、水戸橋見学、 ファーマーズ・マーケット見学 午後: アナハイムミュージアム見学
8/10(木)	サヨナラパーティー
8/11(金)	帰国
8/12(土)・8/13(日)	帰国

<アナハイム市学生親善大使>

Anita Rae Silva (18歳 女性) Kathryn Vergara (17歳 女性)
Jessica Gonzales (17歳 女性) Mimi Srijunthip (17歳 女性)
Bianca Angeles (17歳 女性) Stephanie Masterson (18歳 女性)
Matthew Kelly (16歳 男性) Andrew Nguyen (18歳 男性)
(引率教師) Bob Anthony アナハイム市立ケネディ高等学校教諭

A lot of things in Japan amused me. Some of these things may seem ordinary to Japanese people, like the technologically advanced toilet, but to me, they were amazing feats that amazed me. The parking in my host family's mansion involved the moving of two-story panels that allowed people to park their cars on a second floor. I have seen nothing like that in America, and seeing my host mom take the car out everyday was a fun experience.

Sightseeing and visiting Mito City's facilities were enjoyable, but the best times of the trip were spent in Sakuranomaki High School. I was able to interact with students of my age (mostly), and I was given the chance to see my host sister, Chinami Komori, live her everyday life in school. That, to me, was very interesting because I have only seen Japanese students on TV, and most of how they are portrayed are not realistic. Seeing the Sakuranomaki High School students carry on with their day-to-day activities opened my eyes to the real Japanese high school experience, and it is something that I am glad I was a part of.

日本では楽しいことがたくさんありました。日本人にとっては当たり前な事かもしれないけれど、ウォッシュレット付トイレや2階建て立体駐車場など、私にとっては珍しい物ばかりでした。ですから、ホストマザーがその立体駐車場から毎日車を出すのを見るのが楽しかったです。

観光や水戸市の施設を見学するのも楽しかったです。でも、もっと楽しかったのは水戸桜ノ牧高校での時間です。同世代の学生と交流ができ、ホストシスターの毎日の学校生活も見ることができました。テレビの中の非現実的な日本の学生生活しか見たことがなかった私にとっては、それはとても興味深いものでした。水戸桜ノ牧高校での生活は、日本の学生の本来の姿を私に教えてくれました。この経験は私の宝物です。



My trip to Mito was absolutely wonderful! I feel very honored to have gone, and to have met the people of Mito. The home-stay experience was one of the most important parts of the trip for me, because living in a Japanese home with a Japanese family really helped me see what everyday life is like for Mito citizens. The Komori family was very welcoming and helpful, and I feel like I have really made lifelong friends with them. Mrs. Komori and her daughter Chinami both spoke some English, and that also helped me feel welcomed. My Japanese language skills improved and my understanding of Japanese culture deepened. Every experience I had in Japan was amazing.

I really enjoyed the Japanese food, and now that I'm back in the States, I really miss it. I find that Japanese food is much healthier than American food in general, and its unique flavors and textures are so interesting and subtle.

I also enjoyed the trip to Tokyo very much. To be in a world-famous city and see both a modern mall and the traditional Asakusa market in the same day was very interesting. For me, it represented the duality of Japanese culture, their pride in the very modern and high-tech as well as in their rich history and traditions.

I look forward to continuing to be a part of the Sister Cities program and interacting with the citizens of Mito, Japan.



水戸でホームステイしたことは貴重な体験でした。小森家のみなさんは私たちをとて歓迎してくれて、いつまでも友達でいたいと思いました。お母さんと千奈美は二人とも英語を少し話せたので、すぐに打ち解けることができました。私の日本語も上達し、私は更に深く日本文化を理解できるようになりました。

日本料理は本当においしく、アメリカに戻った今でも忘れられませんが、日本食は一般的なアメリカの食べ物より健康的で独特な味付けと風味で、繊細でとても興味深いものだと思います。

東京への日帰り旅行も楽しかったです。現代的なショッピングモールと伝統的な浅草の仲見世通りを見比べられたのは、とてもおもしろかったです。現代でハイテクなもの豊かな歴史や伝統的なもの、日本が誇る文化の二重性を象徴していると思います。

これからも水戸市民のみなさんとまたお話できることを楽しみにしています。

ステファニー・マスターソン(Stephanie Masterson)



【日 程】	
6/30(金)	来日
7/1(土)・2(日)	ホストファミリーと過ごす
7/3(月)	国田小・中学校 (授業参加、給食・清掃体験、日本の遊び体験)
7/4(火)	市内見学(水戸芸術館、NHK水戸放送局、 見和図書館、茨城県庁、水戸市植物公園)
7/5(水)	午前: 市役所へ表敬訪問 午後: アクアワールド大洗見学
7/6(木)	東京見学(お台場・浅草)
7/7(金)	水戸桜ノ牧高校訪問(日本文化体験)
7/8(土)	午後: 水戸市学生親善大使との交流会 夕: ウェルカムパーティー
7/9(日)	ホストファミリーと過ごす
7/10(月)	水戸桜ノ牧高校訪問(授業参加、茶道体験)
7/11(火)	水戸桜ノ牧高校訪問(授業参加、交流会)
7/12(水)	ホストファミリーと過ごす
7/13(木)	帰国

●親と子の国際講座

～アジアをもっと知ろう～

7月1日(土)、中国・韓国の留学生と、おとぎ話、ゲーム、七夕の飾り付けを通してアジアの文化や言葉を学びました。

10月14日(土)にはハロウィンパーティーを行いました。



●やさしく学ぶ世界遺産

～世界遺産の楽しみ方と

広島・紀伊山地編～

9月20日から毎週水曜3回シリーズで、原爆ドームと厳島神社、紀伊山地など、日本が誇る世界遺産と文化について学びました。



●国際交流パーティー

9月30日(土)、「お月見」をテーマに国際交流パーティーを開催しました。浴衣に身を包み、茶道などを体験。中国料理や韓国料理に舌鼓を打ち、言葉の壁を越えて皆さん楽しそうに交流していました。



今後の行事予定

●青少年のための国際理解講座～ドイツ編～

10月21日(土)、中学、高校、大学生を対象に市内在住のドイツ人を講師に招き、ドイツの歴史や文化について学ぶ講座を開催します。ドイツクッキーも作ります。



●世界の文化と芸術講座

水戸芸術館の協力を得て音楽について学ぶ、連続講座です。来年2月に4回シリーズで行います。



●日本文化体験&市内ウォッチング (外国人対象)

11月2日(木)、紅葉・りんご狩りツアーを行います。



●アナハイム市交流30周年記念事業

アナハイム市との30周年を記念して、11月にアナハイムフェスティバルや児童生徒絵画展など各種イベントを行います。

●年末パーティー

【Year End Party】

さまざまな国の方と交流を深めてみませんか。12月16日(土)



●日本料理教室(外国人対象)

【Japanese Cooking Class】

日本の家庭料理作りにチャレンジします。1月下旬予定



◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

開館時間：午前9時から午後9時まで
休館日：月曜日、祝日

〒310-0024 水戸市備前町6-59

水戸市国際交流センター内

(財)水戸市国際交流協会

Tel:029-221-1800 Fax:029-221-5793

<http://www.mitoic.or.jp/>

E-mail:mcia@mito.ne.jp

水戸市国際交流センター案内図
Area Map & Transportation Guide

